

自由のともしび

JIYU NO TOMOSHIBI

VOL. 84

2018 March

- 板垣退助生誕180年「子どもたちに伝えたい板垣退助」展 記念講演会
第93回高知近代史研究会報告
「自由民権運動とはなにか—板垣退助が伝えるもの—」
- 映像コンテンツリニューアル!
- 「志国高知 幕末維新博」関連企画展
- 第18回社会科自由研究作品展報告



記念館を上空から臨む
(ドローンからの撮影)

■リレーエッセイ 安芸と自由民権運動

安芸市仁井田神社に奉納されている「懇親会席上演説絵馬」を初めてみたのは、自由民権記念館の展示室であった。当時、また安芸市立歴史民俗資料館に就職したものの、ほとんど郷土の歴史にうとかった私は、こんな絵馬が安芸にあるのかと驚いた。絵馬といえば、船や歴史で有名な人物、歴史画を描いたものがほとんどである。明治の自由民権運動が盛んな時、よく行われていた夜学や演説会。このことについては、文字で書かれたものは多いが、視角的に見える絵画資料は少ない。その意味で、この絵馬は大変貴重である、とのお墨付きを得て、安芸市の有形文化財に指定されたのは、一昨年のことである。

安芸と自由民権運動の関わりについては、あまり研究がなされていない。わずかに「共究会」芸陽倶楽部があり、共究会には、土居廓中の武家出身の人が多かった、ということだけが知られている。

ただ、「植木枝盛日記」を見ると、当時の様子が垣間見える。明治二十二年四月、県東部に遊説に行った際のことか記されている。そこには、「芸陽クラブにて談話。夜懇親会、余演説す」とある。また、「愛宕座劇場にて演説会を開く。聴客一千三百全く場内に充積する」とあるように、多くの人が集まっていたことがうかがえる。

平成六年に刊行された『土佐自由民権運動日録』を見ると、安芸のあちこちで演説会等が開かれ、多くの人が集まり、盛り上がりがあったその熱気が感じられる。この本には、立志社が設立された明治七年から明治三十五年までの土佐の自由民権運動の出来事が年月日順に編纂されている。買った当初は、さっと目を通しただけで、そのまま置いていたが、今回改めて見ると、民権運動のみならず、当時の土佐の一日一日の動きがよくわかる。丹念に読み込むと、新たな発見があるかもしれない、と期待を膨らませているこの頃である。

2018(平成30)年3月3日、板垣退助生誕180年「子どもたちに伝えたい板垣退助」展記念講演会・第93回高知近代史研究会として開催した要旨を掲載します。

自由民権運動は、第二次世界大戦後のいわゆる「戦後民主主義」の潮流のなかで注目され、盛んに論じられてきた。そうした議論において、自由民権運動とは、近代天皇制国家君主政体の封建制度に対抗しながら、西欧的な立憲的代議政体の樹立を目指した「日本最初の民主主義運動」であるとされ、全国的な広がり、全国的な高まりをもって展開したことが強調された。

しかし、それから半世紀近くが経過するなかで、自由民権運動に対して様々な見方が加えられるようになった。政府と民権運動とは必ずしも対立するだけではなく、「近代国家の建設」「民衆の国民化」という大枠では共通しており、民権運動と民衆とは、「反政府」「反権力」という点では共通していたものの、政治意識は乖離していたとする見方(牧原憲夫『民権と憲法』)が大きな影響力を持つようになり、また、自由民権運動は、江戸時代の「身分制社会」の後枠を作り出そうとしたものだと位置づける著作(松沢裕作『自由民権運動』)も現れて



真辺美佐さん

いる。

しかし、いずれにせよ、自由民権運動が、前近代の価値基準を意識的に否定し、西欧の近代的な価値基準に基づいて運動を行ったことは間違いない。その最大の目的が国会開設であり、また国会開設が決定してから後は、国会での活動を想定した運動となった。そのため、自由民権運動の始まりを、一八七四(明治七)年の、板垣退助らが愛国公党を結成して民権議院設立建白書を提出したときとする見解は、いずれの研究においてもおおよその一致を見る。

板垣退助生誕180年「子どもたちに伝えたい板垣退助」展記念講演会
第93回高知近代史研究会報告

自由民権運動とはなにか

—板垣退助が伝えるもの—

真辺 美佐(宮内庁書陵部主任研究官)

しかし、この民権議院設立建白書は、以下に説明するように、板垣たちが急ごしらえて提出したものではない。明治政府の開始にあたって、天皇は、神に誓う形で、「五箇条御誓文」のなかで「広く会議ヲ興シ、万機公論ニ決スヘシ」と述べた。板垣だけではなく明治政府も、公議輿論の尊重を理念に掲げていたのである。その理念を実現すべく、政府は政府なりに試行錯誤を繰り返した。しかし、当初、政府が設置した議事機関の議員は、いずれも政府によって選ばれるもの(官撰)でしかなく、立

候補の自由もなかった。

しかしそのような政府にも変化が起きる。政府の議院「左院」のなかで民権議院の必要性が唱えられるようになるのである。そして板垣はそうした議論の最大の理解者となっていた。征韓論をめぐって対立が起きたのはちょうどその折であった。征韓論の紛擾を前に、左院の民権議院論は、一度は棚上げされるものの、その政争の決着の仕方が、民権議院論を再燃させる。従来、征韓論と、下野後の民権議院設立論との連関が述べられることは少

ないが、実はこの両者は密接に結びついている。つまり、閣議で西郷隆盛の朝鮮派遣が一旦決定されたにもかかわらず、それが不正な手段で覆された、その手続きの仕方への憤りが、民権議院設立建白書の提出につながったのである。しかも、板垣らが下野してのち、政府に大量の建白書が寄せられたが、その多くが、征韓論に賛同するものであった。つまり、征韓論に賛同する「衆論」(衆心)が存在するにもかかわらず、少数の官僚が、多数の輿論を閑却して、勝手なことをしていると、板垣も世論も認識し

ており、それを民権議院の開設によって矯正しなくてはならないと考えるに至ったのである。こうして公議輿論の尊重を掲げて始まった自由民権運動は、政府に対抗するために勢力を拡大していく。しかし、運動のなかで、自分の正義を過信するあまり、暴力による改革をも容認してしまうような人々も生み出すことになる。それでは、人びとの自由や権利を伸張するために始めた運動が、人びとの生命や財産を脅かしかねない。板垣は運動のそうした側面を反省し、議会政治―言論による改革、法の手続きを重視し、社会に対しては、知識を蓄え、公正や理性の心を養うこと、多様な意見のなかで活発な議論を行うことが大事であると主張するようになっていく。それが政府を監視できる、成熟した社会をつくることにつながり、国家のためになると考えたのである。しかし、ことは思うほど容易ではない。議会政治が始まると、党組織の方針と党員個人の考えとの相違、組織運営の問題など様々な困難にぶつかり、結局、板垣は政界の引退を余儀なくされる。

歴史というものは、様々な要因が絡み合い、結果を生み出す。突然運動が始まるわけでも、終わるわけでもない。今日から見れば、失敗もあり未熟な部分もあった自由民権運動の歴史も、今日生きる私たちの国家や社会を考えるための材料を十分に提供してくれる。社会が分断され、ともすれば異なる意見を持つ者同士の対話が成立しにくくなっている今だからこそ、自由民権運動の歴史を学び、自由な立場からの意見の交換を重視した板垣らの運動を考え直してみることも、意味ある作業なのではないか。

映像コンテンツ リニューアル!

平成2年の開館以来上映していた映像が美しく生まれ変わりました。

2階の階段前大スクリーンでは、自由民権運動と館内を紹介した「自由のともしび」、民権期の演説会場の雰囲気再現した民権座では、「行動する思想家 植木枝盛」、自由民権運動の概略を紹介した「自由と土佐」と小中学生の団体観覧用として自由民権運動の概略を紹介した「自由民権って何?」の3本を上映しています。

撮影は植木枝盛の書斎、得月楼、高知城等で行い、全てフルHDで制作しました。

多数の方のご来場をお待ちしております。



ドローンでの撮影



植木枝盛書斎での撮影風景



演説風景の撮影



「志国高知 幕末維新博」

関連企画展

大政奉還150年・明治維新150年を迎え、平成29年3月4日から平成31年3月31日(予定)まで、高知県全域で開催されている「志国高知 幕末維新博」。2018(平成30)年4月21日から第一幕が始まり、自由民権記念館はその地域会場の一つとなっています。第二幕もさまざまな関連企画を準備しております。ご期待ください。

巡回展

「幕末維新写真展」

期間 2018(平成30)年 4月28日(土)～6月24日(日)
会場 1階 自由ギャラリー

申込不要

記念講演会「歴史写真について」(仮) 倉持 基氏(歴史写真研究者)

2018(平成30)年5月26日(土) 午後2時～4時 / 1階 民権ホール
※参加無料・駐車場あります

見て触れてまなぶレンズがとらえた幕末・明治の世界

幕末から明治へ——近代日本の夜明けは、日本写真史の夜明けでもあった！
激動の時代、変わりゆく日本の姿が歴史写真で鮮明に蘇る。
写真師が見た幕末維新が今ここに！

◆ガラス湿板写真を見る楽しみ

静岡県浜松市の湿板写真家林道雄氏が収集したガラス湿板写真のコレクションを中心に展示しています。

ガラス湿板写真は縦11センチ、横8センチ程のガラス板に、幕末維新の偉人や当時の人々が緊張した面持ちで写っています。一つの小さなカットに当時の雰囲気凝縮されていて、偉人たちの表情からは歴史の息遣いを感じられます。

今回の展示品の一つに、慶応年間に撮影された抜刀した侍がポーズを取った写真があります。当時、武士が刀を抜くことは厳しく制限されていたため、このような写真は、とても珍しいものです。

また、着物姿の一人と洋装の男性がいっしょに写った写真や、馬に乗る武士の写真



抜刀する志士

第5弾

「坂本直寛

—龍馬の遺志を継ぐもの—」展

期間 2018(平成30)年 4月28日(土)～9月24日(月・振替休日)
会場 2階 特別展示室

龍馬の甥 坂本直寛の生涯

『汗血千里の駒』の作者坂崎紫瀾に、叔父龍馬の遺志を継ぎ、自由民権運動に奔走していると紹介された坂本直寛(南海男)の生涯を展示します。

坂本龍馬の甥にあたる坂本直寛は、自由民権運動の理論的指導者の一人として活躍しました。

実父高松順蔵は、安芸郡勤王党の育ての親の一人と言われ、父親の教え子の多くが明治を迎えることなく勤王運動の中で死んでいきます。叔父坂本龍馬もその一人です。さらに、兄の高松太郎は叔父龍馬の後を追いかけるように脱藩し、海援隊で活動しました。多感な少年直寛は、知り合いの死を身近に感じ、また実兄や叔父の活躍に胸を躍らせたと思います。

明治になって立志学舎に学びました。優秀な成績であったことは、成績表で分かります。明治一〇年、立志社が発行した機関紙『海南新誌』には、「才谷梅次郎」のペンネームで執筆しています。「才谷梅太郎」の変名を使った叔父龍馬を意識していることは明らかでしょう。

明治一六年、キリスト教に入信。明治二〇年、



一家を挙げて浦臼に移住する時
一族との訣別記念(明治31年春)

観覧者限定特別企画

古写真体験プログラム

- 期間 / 2018年 5月3日(木・祝)～5月6日(日)
- 会場 / 1階 研修室
- 参加条件 / 当日、常設展・企画展を観覧された方



- 参加費 / 無料 (観覧券のご提示が必要です)

① 古典技法による
「鶏卵紙焼き付け体験」(約90分)
当時に近い技法で幕末の志士の写真を鶏卵紙に焼き付けるワークショップです。5月3日(木・祝)・4日(金・祝)
※各回10名まで。(1日に2回実施)
希望者多数の場合は抽選となります。

② 湿板写真家の林氏による
「ガラス湿板写真撮影体験」(約40分)
専門の写真家が当時の「ガラス湿板写真機」で参加者の記念写真を撮影します。5月5日(土・祝)・6日(日)
※各回2組まで。(1日に5回実施)
希望者多数の場合は抽選となります。
※ガラス湿板写真は1組につき1枚となります。
※完成まで時間を要するため、後日送付となります。送料は参加者のご負担となります。

坂本龍馬の掛け軸、明治天皇・皇后や歌舞伎役者の五代目尾上菊五郎の錦絵を湿板写真と比較することができ、楽しく見られます。また、他にも手彩色写真を展示していて、これはカラー写真の無かった時代に絵の具を使って、細かな手作業が施されています。人力車に乗る女性、力士の土俵入りや、わらぶき屋根の農家など、色鮮やかに明治期の風俗を浮かび上がらせています。カメラの仕組みが分かる体験型展示や、目の錯覚を利用した元祖・3D写真装置「ステレオスコープ」の展示では、西洋の技術を目の当たりにした当時の日本人の驚きを追体験することができます。



大判手彩色写真 生地を干す女たち

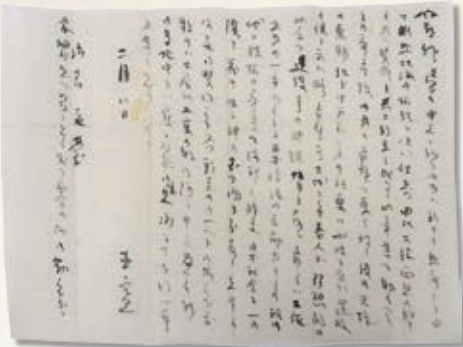


坂本龍馬

なども公開しています。ガラス湿板写真は撮影に時間がかかる特性があるため、動物が被写体となっているものは、希少とされています。さらに、坂本龍馬や大久保利通、伊藤博文といった幕末維新の偉人のガラス複製写真も展示しています。当時の写真師が切り取った、坂本龍馬が生きた当時の風景や風俗、激動の時代の息吹をぜひ、デジタルで感じてほしいと思います。

◆ ガラス湿板写真以外の展示も楽しい

ガラス湿板写真以外では、京都の寺院や庶民の暮らしぶりを鶏卵紙に焼き付け、それを収めたアルバムを展示しています。また、当時撮影に使われた英ダグメイヤー社製のカメラとレンズや、明治期に発行された徳川慶喜、大隈重信や木戸孝允など著名人の肖像写真を収録した写真集も展示しています。



片岡健吉宛 坂本直寛書簡 1896(明治29)年2月8日
北海道拓殖の決意を表明した。

片岡老兄
二月八日
直寛
二白 細川兄は如何御座候哉、御面会の御御被下度候
拜啓仕候 過日も申上候如く、小弟ハ祈りと熟考とに由
て断然北海の拓殖を決い仕、且つ由比大脇両兄の如き
も大い賛成し、共に願主と成りて此事業を助くへし
との事にて、弥小弟も希望を厚く仕候。彼の天塩
の原野、殆ど十萬石ニ近き弘原ハ地味と云ひ運搬
の便と云ひ頗る希望ある土地にして吾人が理想的の
社会を建設するの御願なりと存候。希くハ土佐
兄弟の一手少くとも日本信託の元動力として、彼
地ニ殖拓の事業を設計し、将来日本社会第一の
潔き義に生る神の国を作り度存候。先生も
何卒御賛同被下、且つ願主の一人と御成被下度
精きハ土居氏上京の時御諒し申上べく候。
御多忙中とハ察し候得共、御意見承る事を得ハ幸
之事ニ御座候 草々

申込不要

記念講演会
「龍馬たちのデモクラシー」
植村 隆氏

高知県生まれ。朝日新聞記者等を経て、
カトリック大学(韓国)客員教授。
2018(平成30)年6月30日(土)
午後2時～4時 / 1階 民権ホール
※参加無料・駐車場あります



演説する坂本南海男
(明治16年9月26日
「土陽新聞」汗血千
里之駒)挿絵

このような、坂本直寛の波乱に満ちた生涯とそれに関係する資料を紹介します。

三大事件建白で上京、保安条例の退去命令を拒否して投獄されました。明治二十九年、キリスト教精神に基づいた「潔き義に生きる神の国」を建設するため開拓移民団北光社を引き連れ北海道に渡り、現在の北見市の礎を作りました。涯とそれに関係する資料を紹介します。



坂本直寛 (1853～1911)

1853(嘉永六年、土佐国安芸郡安田村に郷士高松順蔵の次男として生まれる。一七歳の時、伯父坂本権平の養子となり高知市に移り、植木枝盛などと自由民権運動の理論的指導者の一人として活躍。運動が衰退した後には、キリスト教の洗礼を受け、開拓移民団を連れ北海道に渡る。その後、炭鉱労働者・日露戦争に出兵する兵士に伝道。最晩年は囚人への伝道に尽力。1911(明治四四)年没。享年五九歳。

第18回

社会科自由研究 作品展報告



当館マスコットキャラクター「じゅっぴー」

前期 平成30年1月20日(土)～2月4日(日)
後期 2月6日(火)～2月22日(木)
共催 高知市教育研究会社会科部会

この作品展は、当館開館10周年を記念して始まり、今年で18回目となります。今回も「歴史」「人物」「地理・文化」「体験」など全8分野に数々の力作が出品されました。

小学校36校、義務教育学校2校から合計309点の応募があり、その中から40点を特別賞に選定し、2月3日(土)には表彰式を開催しました。期間中1,226名の皆さんにご覧いただきました。

実施したアンケートでは、いろいろなテーマの自由研究があり、

見ていて楽しかった」「同じ小学生の自由研究を見て自分も参考にしようと思った」「大人顔負けのすばらしい研究発表がたくさんあり、とても驚いた」「表彰式のマジックショーがおもしろかったので来年もやってほしい」などの意見をいただきました。皆さん、ごつごつありがとうございました。



会場の様子



鈴木勝幸さんによる「マジックショー」



表彰式の記念撮影

第18回社会科自由研究作品展 特別賞40作品

賞	分野	学校	学年	氏名	作品名
自由民権記念館特別賞	体験	高知小学校	2	倉本 皓太	Doctor-Heli
	人物	第六小学校	3	岡村 亮汰	ぼくのひひひおじいちゃん岡村けいろうについて
	産業・交通	鴨田小学校	3	筒井ひかり	日曜日に行って来ました
	総合	一ツ橋小学校	3	濱田 圭汰	ぼくの妹はどここの学校に入るのか
	環境	高知大学教育学部附属小学校	4	太田希乃香	高知県の木のある暮らし
	地域・福祉	昭和小学校	4	要 美帆	すてき発見!高知市の街路市めぐり
	歴史	鴨田小学校	5	橋本 吉功	神社めぐり
皇宮の賞	環境	介良瀬見台小学校	2	梅原 侑芳	よごれた水はどこへいくの?
		大津小学校	6	竹林 珀飛	水環境の調査
立志社賞	産業・交通	大津小学校	2	藤原 快成	ぼくのナスものがたり
		神田小学校	3	遠山 悠月	神田校区の信号調査
		高知大学教育学部附属小学校	5	小山 颯	空港探検
		高知大学教育学部附属小学校	6	濱田 高壽 杉本 右京	米作りのひみつ
夢・人・自由賞	人物	旭東小学校	4	阿野田紗由	鹿持雅澄と植木枝盛を調べよう
		介良小学校	5	遠賀 有真	写楽って何者?
		高知大学教育学部附属小学校	5	宮本真理子	田内千鶴子と木浦共生園について
		義務教育学校行川学園	5	宇川 岳志	戦国キャラクター図かん
		一ツ橋小学校	6	村田 創	永谷宗円～日本で緑茶製法を発案した男～

賞	分野	学校	学年	氏名	作品名
よさこい民権賞	総合	大津小学校	2	戸梶 紗希	大津ごう雨について
		鴨田小学校	5	清遠 素晴	食べ物原価について調べよう ぼくたちのくらしに係わる お金の話について考えよう
		高知小学校	5	松村 桃香	日本の新聞と題字
		朝倉第二小学校	6	谷脇 璃美	新聞記事から学ぶ
		十津小学校	6	畠山 大輝	戦争で殺された八子・八子の一生
ジョン万次郎賞	体験	高知大学教育学部附属小学校	1	村田 充央	おはなやさんのしごとしらべ
		大津小学校	3	元吉 彩乃	高知子どもかん光大使にチャレンジ!
		介良瀬見台小学校	5	梶原 大晴	犬山城
		春野東小学校	6	改田 真隆	八十八ヶ所達成!
自由のともしび賞	地域・福祉	久重小学校	2	武林 青星	久じゅうのいいところ見つけた!
		大津小学校	4	弘田 彩葉	みんな知ってる? 障害のある人の生活
		鴨田小学校	5	山下 泰知	献血について調べてみよう!
植木枝盛賞	地理・文化	昭和小学校	6	加地 若奈	昭和小地区について
		高須小学校	3	竹村 胡美	世界のことば
		高知大学教育学部附属小学校	4	三宮 千宙	波羅間島ふしぎ発見!
		鴨田小学校	5	松本 泰誠	レッツ・ゴー高知 大ぼうけんゲーム
板垣退助賞	歴史	第六小学校	5	藤塚 正浩	物部川 扇状地を歩く
		旭東小学校	2	吉村 愛美	高知しょうをたんけんする
		江陽小学校	4	福井 ねね	沖縄と戦争
		第四小学校	5	小澤 禱	甲冑について
初月小学校	6	高橋 莞太	名城「高知城」		

「志国高知幕末維新博」にあわせ、当館が所蔵する幕末維新史に関する資料を四回シリーズで紹介します。(第三回)

◆ 新着資料

本年度購入した写真です。裏面には、右から片岡健吉、高屋左兵衛、山田喜久馬、二川元助、西山栄、真辺戒作と記されています。

このうち右から三人の部分は、平尾道雄著『図説土佐の歴史』(講談社1982年)の「立志社の統率者片岡健吉」の項で「青年武士の時代(向かって右)」として、片岡の青年時代の写真として紹介されています。ただ、この写真がいつの時代のどのようなものかは不明でしたが、今回の写真には「清水京都」と丸印が、さらにアルファベットで「s.shimizu Kyoto Japan」とあり、京都で撮影されたものと判断できます。

では、この面々が青年武士の時代に京都にいたのはいつでしょうか。それは、土佐藩軍の中樞をなした歩兵大隊である迅衝隊の一員として戊辰戦争のため京都に滞在していたときです。迅衝隊は、慶応四年一月八日、板垣退助を大隊司令とし、小隊長は「前年後半の兵制改革等の動きの中で倒幕的傾向をつよめてきた土格」(『高知県歴史辞典』)で編成されました。彼らは慶応四年一月十三日高知を出発、二八日京都に到着しました。そして、東山道先鋒総督に属し、二月

十四日京都を進発、江戸を経て東北に転戦し、今市、会津の激戦を戦い、十一月高知に凱旋しました。

この写真の人々の内、『東征記』によれば京都出発時、片岡健吉は大軍監兼右半大隊司令、山田喜久馬は第九番隊長、二川元助は第十番隊長、真辺戒作は第六番隊長でありました。また、高屋左兵衛は「本営付第二大隊司令兼軍監」(『高知県人名事典』)、西山栄は第十三番隊長(『戊辰従軍戦士名籍』)でした。

片岡健吉書簡

この時、片岡が京都から家族に当たった書簡の一部を紹介します。

我等事無異義去月廿八日京着致し二月朔日当分大御目付役被仰付出勤二障無御座又にか二江戸江御人数出で候事二相成明日京都出足被仰付江戸之ほふ参り候間左様御承知可被成候、家来も老人にへし候よふ被仰付左弥太をつれ岩次ハ御屋しきへのこしおきおいおい御国へかへり候事二相成可申と存候

健吉

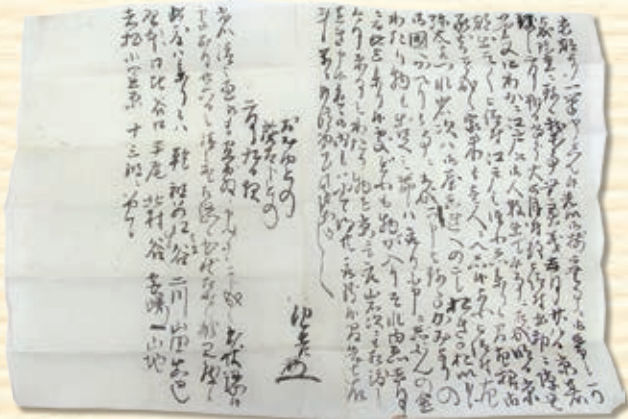
おみゆとの
啓太郎との
二月九日夜

これによれば、片岡は慶応四年一月二八日京都に到着し、二月十日江戸へ出発する予定です。したがってこの写真はこの間に撮影されたものと考えられます。

二五〇年ぶりのいくさ

戊辰戦争は、日本にとっても、侍にとってもほぼ二五〇年ぶりのいくさでした。彼らは全員二〇代前半です。その胸中にはどのような思いが去来していたのでしょうか。この写真は、これから戦場にむかう青年武士たちの表情をとらえた貴重な写真であるといえるでしょう。

戊辰戦争時、京都から江戸へ進発する前に撮影した土佐の青年武士。



妻と長男に宛てた片岡健吉の書簡 1868(明治元)年2月9日

Topics

トピックス

ドローン、登場。

自由民権記念館で上映している映像をリニューアルしました。

表紙の写真は自由民権記念館の外観を上空からドローンを使用して撮影したものです。映像は、2階の階段前大スクリーンで上映しています。



ドローンで館の外を撮影しました!

「海援隊」来館

土佐おもてなし海援隊のメンバーから「坂本龍馬」と「武市半平太」が来館されました。幕末維新博の地域会場取材の一環です。「オフィシャル・ブログ」でもコメントをいただきました。



龍馬さん(左)と半平太さん(右)

「古地図ナビ」に自由民権

平成30年2月28日の高知新聞「古地図ナビ」に自由民権史跡が登場しました。また、演説シーンは当館の「行動する思想家 植木枝盛」の映像収録に相乗りで撮影されたものです。



植木枝盛邸跡を取材する記者

行事予定 (春・夏)

予定は変更になる場合があります。
詳しくは自由民権記念館までお問い合わせください。

開催中～4月8日(日)

■「志国高知 幕末維新博」関連企画展 第四弾

板垣退助生誕180年

「子どもたちに伝えたい 板垣退助」展

会場:2階特別展示室

※常設展観覧券が必要

4月28日(土)・30日(月・振替休日)
5月12日(土)・19日(土)

午前の部 10:00～12:00

午後の部 13:00～16:00

■ワークショップ

「万華鏡を作ろう」

会場:1階研修室

参加費:300円(材料費込)

※事前申込不要、随時受付

4月29日(日・祝) 15:10～17:00

申込不要

◆友の会総会・記念講演会

「西南戦争と土佐挙兵計画について —立志社の獄—」(仮)

講師:豊田 満広氏(中岡慎太郎館学芸員)

会場:1階研修室

※総会 13:30～15:00

当館内自由民権記念館友の会事務局に
お問い合わせください。

4月28日(土)～6月24日(日)

■「志国高知 幕末維新博」特別巡回展 「幕末維新写真展」

会場:1階自由ギャラリー

※常設展観覧券が必要

5月3日(木・祝)～5月6日(日)

■観覧者限定特別企画 「古写真体験プログラム」

会場:1階研修室

参加条件:当日、常設展・企画展を観覧
された方

参加費:無料(観覧券のご提示が必要です)

5月26日(土) 14:00～16:00

申込不要

■「幕末維新写真展」記念講演会 「歴史写真について」(仮)

講師:倉持 基氏(歴史写真研究家)

会場:1階民権ホール

4月28日(土)～9月24日(月・振替休日)

■「志国高知 幕末維新博」関連企画展 第五弾

「坂本直寛 一龍馬の遺志を 継ぐもの」展

会場:2階特別展示室

※常設展観覧券が必要

6月30日(土) 14:00～16:00

申込不要

■高知近代史研究会第94回研究会 「坂本直寛 一龍馬の遺志を 継ぐもの」展記念講演会 「龍馬たちのデモクラシー」

講師:植村 隆氏

(カトリック大学(韓国)客員教授)

会場:1階民権ホール

7月25日頃予定

■夏休み子ども歴史教室

小中学生が、館内で自由民権運動に関するクイズラリーに挑戦。

※学校を通じて申込受付

9月15日(土)～11月25日(日)

■「志国高知 幕末維新博」関連企画展 第六弾

「明治維新150年」展(仮)

会場:1階自由ギャラリー

※常設展観覧券が必要

時代の郷



自由のともしび
JIYU NO TOMOSHIBI

自由民権記念館だより vol.84

発行 2018(平成30)年3月31日 発行人 筒井秀一

発行所 〒780-8010 高知市棧橋通4丁目14-3 TEL.088-831-3336 FAX.088-831-3306

自由のともしび(Vol.60から)が当館公式サイト(<http://www.i-minken.jp/>)でご覧いただけます。